

定期報告(ウルグアイ内政・外交:2014年10月)

1. 内政

(1) 大統領・上下両院議員選挙

ア 26日、大統領・上下両院議員選挙及び国民投票が実施された。有権者数は2,620,791人で、投票率は90.51%であった。全開票数は2,372,117票、うち2,293,788票が有効票。開票の結果、いずれの政党候補も有効票の過半数を獲得できなかったため、11月30日に得票数上位2名のバスケスFA候補とラカジェ・ポウ国民党候補の決選投票が行われる。

イ 選挙裁判所公表の各党候補得票数及び得票率は次の通り(開票率100%の確定値)。

政党・候補者名	得票数	得票率
<u>FA</u> タバレ・バスケス候補	1,134,187票	47.81%
<u>国民党</u> ルイス・アルベルト・ラカジェ・ポウ候補	732,601票	30.88%
<u>コロラド党</u> ペドロ・ボルダベリー候補	305,699票	12.89%
<u>独立党</u> パブロ・ミエレス候補	73,379票	3.09%
<u>Unidad Popular</u> ゴンサロ・アベジャ候補	26,869票	1.13%
<u>エコロジスト党</u> セサル・ベガ候補	17,835票	0.75%
<u>労働者党</u> ラファエル・フェルナンデス候補	3,218票	0.14%

ウ 選挙裁判所公表の各党獲得議席数は次の通り(開票率100%の確定値)。

	上院獲得議席数	下院獲得議席数
FA	15	50
国民党	10	32
コロラド党	4	13
独立党	1	3
Unidad Popular	0	1
エコロジスト党	0	0
労働者党	0	0

エ 大統領・上下両院議員選挙と同時に実施された国民投票では、刑事罰適用年齢を現行の18歳から16歳に引き下げる憲法改正の是非が問われた。刑事罰適用年齢引き下げへの賛成票は1, 110, 283票で、全有権者の過半数に達しなかったため、刑事罰適用年齢引き下げは否決された。

(2) 政党の動向

28日、コロラド党全国執行委員会(CEN)は、10月26日の大統領選挙第一回投票での同党の敗北を受け、11月30日実施の決選投票ではラカジェ・ポウ国民党候補を支持し、コロラド党員及び支持者に対し、ラカジェ・ポウ候補に投票するよう要請することを決定した。

(3) 世論調査

26日投票日前に当地主要世論調査会社が実施した大統領選挙の投票動向に関する調査結果は次の通り。

ア 質問項目:「次の大統領選挙であなたはどの政党に投票しますか」

イ 回答集計結果

	FACTUM 社	Cifra 社	EQUIPOS 社
FA	44～46%	43. 0%	41. 0%
国民党	31～33%	32. 0%	29. 2%
コロラド党	14～16%	18. 0%	13. 5%
独立党	3～4%	3. 3%	2. 5%
その他政党, 白票, 棄権, 分からない	3. 2 ～5%未満	3. 7%	13. 8%

(4) 政府、議会の動向

21日、定住促進法(法律第19. 254号)に基づきウルグアイへの定住申請手続きを行った最初の家族らに対し、アルマグロ外相が身分証明書等を手交した。同法律は本年8月に議会で成立、公布されたもので、ウルグアイ国籍者の親族及びメルコスール加盟国の国籍を有する者に対するウルグアイへの定住を促進することを目的としたもの。

2. 外交

(1) 要人往来

ア 3～4日、ポルト外務次官、ジェンタ運輸公共事業次官ほかロシアを公式訪問した。モスクワ訪問中両次官ほかは、セルゲイ・リャブコフ外務次官らと会談した。またGAZPROM EP International 社経営陣との会合が行われた。今次ウルグアイ政府高官のロシア訪問は、ウルグアイへの投資促進及び深水港建設計画に関する説明を行うことを目的としたもの。

イ 3～4日、カミラ・バジェホ・チリ下院議員が当国を訪問した。同議員は3日にムヒ

カ大統領と、4日にロベルト・マルカリアン共和国大学学長とそれぞれ会談した。ムヒカ大統領との会談後同議員は、ウルグアイにおける無償かつ世俗的・普遍主義的な教育制度を賞賛した。

ウ 6日、鄭義和・韓国国会議長が当国を訪問し、ムヒカ大統領と会談した。会談で鄭議長は、韓国は二国間協力及び通商関係の強化、ウルグアイの技術プロジェクト及び深水港計画への投資に関心を有していると述べた。

エ 8日、アントニオ・カリカルテ・キューバ外国通商・投資次官が当国を訪問し、アルマグロ外相、ベルガラ経済財務相ほかと会談した。カリカルテ次官は EXPO ALADI(当地にて8～10日開催)に出席するキューバ官民合同代表団とともに来訪した。ウルグアイ・キューバ通商促進メモランダム署名は11月にハバナで行われる見込み。

(2) 二国間関係

ア 27日付外務省プレスリリース及び28日付大統領府プレスリリースは、26日に行われたブラジル大統領選挙決選投票に関し、現職のルセフ大統領の再選を祝福すると発表した。

イ 30日、ウルグアイ川浚渫工事開始式典が行われ、ムヒカ大統領、アルマグロ外相、ピントド運輸公共事業相、ディアス国家港湾機構総裁、シルベルマン・ウルグアイ川管理委員会(CARU)ウルグアイ側代表、ガジョ・リオネグロ県知事他が出席した。ウルグアイ川及びラプラタ川浚渫計画は2010年6月のムヒカ大統領とフェルナンデス・アルゼンチン大統領の会談後、共同宣言の中で発出され、計画の具体化は2011年3月、CARUに委託された。

(3) メルコスール

20日付大統領府プレスリリースは、第22回家族農業に関する専門会合(XXII Reunión Especializada de Agricultura Familiar)が12月3～5日にモンテビデオで行われる予定であると発表した。大統領府によれば、同会合にはメルコスール加盟・準加盟国代表が出席する見込みであり、15日には農牧水産省にて会合準備協議が行われた。

(4) 国際関係

1日、ウーゴ・カイルス・駐米州機構(OEA)ウルグアイ大使は、インスルサ OEA 事務総長に信任状を提出した。カイルス大使は8月27日に離任したロマニ前大使の後任として着任。

(5) シリア難民受け入れ

9日、ウルグアイ政府は最初のシリア人難民家族を受け入れた。午前11時34分、5家族42人が警察学校のバスで、当面の滞在先となるモンテビデオ郊外のマリスタ修道会施設に到着した。

報道によれば、付近住民はウルグアイとシリアの国旗やプラカードを用意するな

ど歓迎ムードである。難民到着後、ムヒカ大統領、アルマグロ外相、エルリッチ教育文化相、ガリバルディ教育局長、オリベラ・モンテビデオ県知事らが訪問し難民を歓迎した。ムヒカ大統領は「シリアの子供達は雨の降らない国からやってきて、サッカーを楽しんでいる。また、ブラジルなどの大国も、我々に続き、シリア人難民を援助する方策をとらなければならない」と満足げに記者に対して発言した。

(6)ALADI

8～10日、モンテビデオにて EXPO ALADI が開催された。ALADI の発表によれば、加盟13カ国から600を超える企業が参加した。8日の開会式にはムヒカ大統領、アルマグロ外相、ベルガラ経済財務相が出席した。開会挨拶でムヒカ大統領は、ラテンアメリカの統合に企業が果たす役割の重要性等について演説した。

3. 社会

(1)治安関係

ア 受刑者出所に伴う犯罪の増加

グアルテッチェ警察庁長官によれば、今年に入ってから刑期を終え出所した元受刑者数が3千人(うち6百人以上が強盗)に上り、その50パーセント以上が再犯者である。再犯に関するデータとして犯罪別では、薬物は90パーセント以上、強盗は50パーセント以上である。

イ 治安に関する世論調査結果

当地主要世論調査会社の一つである FACTUM 社の調査によれば、国民の31パーセントが国内主要問題として治安問題を挙げている。

ウ 防犯カメラの設置状況

警察はパソ・モリノ地区の商店街に防犯カメラを設置した。また、無人機「ドローン」によるカメラ警備も開始となった。

エ 警ら強化

モンテビデオ県内で発生する強盗事件で、犯行後犯人らが近くの不法居住地へ逃走するケースが多く確認されていることを受け、同県警が同所周辺の警ら強化を開始した

(2)その他

2日、ラテンアメリカ統合連合(ALADI)臨時会合が開催され、エステラ・デ・カルロト「五月広場の母」代表、アルマグロ外相が出席した。今次臨時会合はカルロト代表を「ラテンアメリカの傑出した市民」(Ciudadana ilustre de América Latina)として称えたとの ALADI 代表者委員会の決議に基づいて行われたもの。会合では軍政期行方不明者及び「五月広場の母」運動に関するビデオ上映が行われ、アルバレス事務総長、アルマグロ外相及び ALADI 加盟各国代表が演説した。またムヒカ大統領及び作家のエドゥアルド・ガレアーノからの同代表宛メッセージが読み上げられた。

同代表は会合の最後に演説し、「これ以上、決して行方不明者を出してはなりません」(Nunca más)と締めくくった。

(了)